

令和6年度 学校関係者評価実施報告書

学校番号	8	学 校 名	沼津特別支援学校伊豆田方分校	記 載 者	高木 亮
------	---	-------	----------------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
安全	人権に配慮した指導の徹底	・職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ・生徒自身や保護者が、人権が尊重されていると感じている。	B	B	・職員と生徒共に挨拶がとてもよくできている。 ・全員が人権を尊重されると感じられるように、さらに意識向上に取り組みたい。
安全	誰もが安心して通える学校	・校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。 ・調整や工夫により、教室や特別教室が有効に活用されている。	B	A	・少ない活動スペースを有効活用して環境整備に努めている。
専門	生徒との対話を通じた教育的ニーズの把握	・生徒自身が自分の得意や苦手を知り、生活の中で活かしている。 ・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が自分の得意を活かし、主体となって活躍している。	B	B	・学習に、生徒が生き生きと活動する場面が多く見られた。 ・多岐にわたる障害特性や生活状況の生徒に対しての向き合い方や指導、支援の工夫を考えたい。
専門	個に応じた適切な進路決定	・生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ・保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協働している。	B	B	・生徒の思いや希望を尊重して丁寧な進路指導がなされている。 ・進路においては、作業内容の他に事業所の考え方や体制等のトータルな視点での選択ができる仕組みを期待したい。
連携	関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導	・職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 ・保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、支援している。	A	A	・現在や卒業後の生活を見据えた支援が、本人、家庭、関係機関との連携が密に取れていた。 ・保護者が、子どもの職業、家庭、地域等の卒業後の生活全般についてイメージできるように取り組みを工夫していきたい。
連携	生徒の自立と輝きに向けた共生・共育の充実	・生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学習に積極的に参加している。 ・学校運営協議会と教職員とが、相互に連動している。	A	A	・分校の強みである田方農業高校や地域との共生・共育の取り組みはとても素晴らしい。今後も積極的に取り組みたい。 ・田方農業高校と合同の学校運営協議会は、これからも定期的に行い意見交換できるとよい。
チーム	チームとしてやりがいのある職場	・教職員が、チームとしての成長を実感している。 ・職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。	B	B	・教職員同士の良好な関係構築は、生徒の成長の土台となるため、お互いに何でも言い合える信頼構築に努めたい。